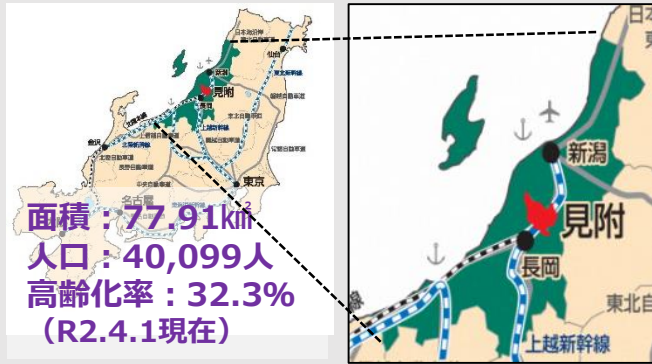


2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



自治体の概要

新潟県の中央(重心点)に位置する
県内で最もコンパクト(面積が小さい)な市



バランスの取れた産業構造へとシフト



今後のビジョン・計画

歩いて暮らせるまちづくり「ウォークラブルシティ」
実現のための5つのポイント



SWCとSDGsの連携

健康まちづくり「スマートウェルネスシティ(SWC)」
総合計画にSDGsを統合・整理

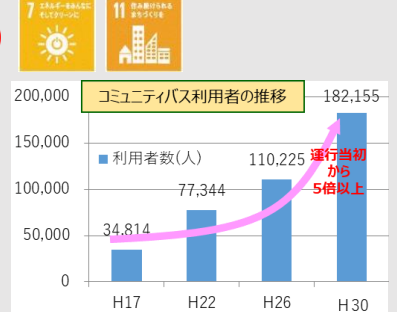
SDGsに関する特徴的な取組

★公共交通の利用促進(過度な車依存からの脱却)

公共交通 → ウォークラブルシティの根幹的なインフラ

各交通手段の特性を踏まえて役割分担

- ・中心市街地内は約30分間隔でコミバスを循環運行
- ・郊外から中心市街地への接続はデマンドタクシー
- ・居住エリアと各種サービス施設を連結



公共交通の利用促進 → 持続可能な公共交通の形成

①「まち歩き」と「コミバス」をコラボ
スタンプラリー-BINGO



②コミバス全車にラッピング
オリジナルデザインSDGsマーク

③交通空白・不便地域への対応強化
新たなモビリティの導入検討



④統一デザインでまちを彩る
バス停上屋、健康ベンチ

★ソーシャルキャピタルの醸成(SDGsの理解・ビジョンの共有)

SWC、SDGs推進のカギは人材

地域住民が主体となり地域づくりを行う仕組み「地域コミュニティ」

- ・地域コミュニティの設立地域はソーシャルキャピタルが高い
- ・設立準備期間に約1年半をかけ住民の「自分事」に



概ね小学校区単位
H18 ~ H30
全11地区設立完了

学校教育を通じた子どもたちへのSDGs教育

長岡技術科学大学
国連アカデミック・インパクト
SDGsゴール9ハブ大学

プログラミング
教育
2020年から必修化

プログラミング教育を通じて
SDGsを学べる
カリキュラムを構築

SDGsを一般化し、社会に
広く根付かせていく仕組みを
構築

